



第 3 2 号
発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

同窓会報編集委員会

TEL・FAX (0761)21-6330

印刷 マルト印刷工業株式会社

平成18年5月19日(金)、本校講堂にて新校舎落成記念式典が盛大に挙行されました。県当局、防衛施設庁、同窓会、PTA、設計施工および地元の皆様をはじめ、関係各位の多大なご理解とご協力のお陰で、すばらしい新校舎が完成致しました。教職員・生徒にとって、この



上ない喜びと感激で一杯であり、心よりお礼申し上げます。

団塊の世代の入学が始まった昭和38年に竣工した旧防音校舎も40数年の月日とともに老朽化し、また、社会の変化とともに新時代に相応しい多様な力を伸ばす学習施設を備えた校舎が望まれてお

りました。吉田歳嗣同窓会会長、徳田八十吉前同窓会会長をはじめ、同窓会の皆様の多大なご尽力により、すばらしい学習施設・設備を備えた新校舎になりました。長い間、ご協力ご支援を賜りましたことを深く感謝致します。

新校舎には、防音講堂兼体育館、明るく快適な教室・実験室・研究室に加え、階段教室の理数科講義室や多目的な学習室が備わり、生徒達の主体的な学習を充実させ、個々の生徒の高い能力をしっかりと伸ばすに相応しい学習環境となりました。

校舎中央には、図書室・視聴覚室兼集会室・情報室などを集約した生活学習センターがあり、地域に開放して地域の皆様の生涯学習にも活用できます。

また、コモンスペースや廊下に多くの美術品が展示され、哲学の広場や緑豊かな前庭など豊かな人間性を育成するに相応しい教育環境となりました。本校は、平成15年に県の「いしかわスーパーハイスクール」の指定を受け、学区制廃止や校舎新築を

飛躍のチャンスと捉え、これまで3年間、全力で学校改善に努め、よく努力する生徒達と教職員の熱心な指導のお陰で、学力向上・部活動の活性化・進路実現率の向上など多くの成果を上げてまいりました。

これまでの取組みが評価され、平成18年度には「いしかわスーパーハイスクール(さらに3年間)」「文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(5年間)」の2つの指定を受けました。この2つの指定をしっかりと活用し、高いレベルの「学力」「人間力」を身につけ、これからの社会を担うリーダーとして国際社会で活躍する生徒の育成に全力で努めます。

新校舎完成を機に、この恵まれた教育環境をしっかりと活かした高い教育効果を生み出す教育システムを構築し、伝統の自主自律を重んじる教育をさらに充実させ、文武両道の進学校として地域から信頼され県内全域から高く評価される学校づくりに邁進致します。

同窓会の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

感謝の言葉

生徒代表

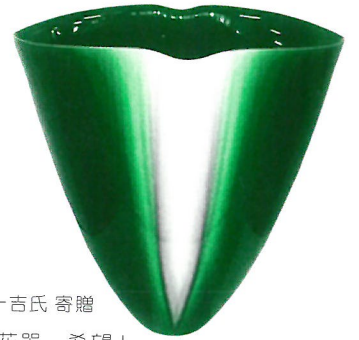
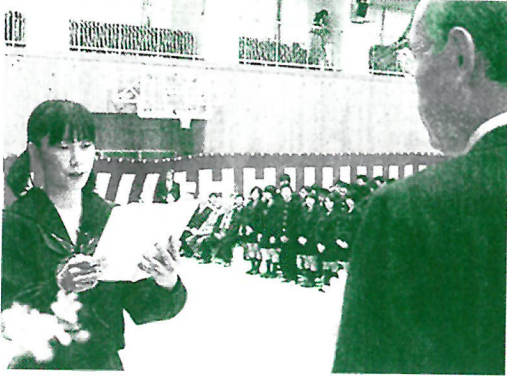
中村 朱那

新緑も目に眩しいこの初夏の良き日、六年あまりの歳月を費やした新校舎もすべてが整い、私たちの学舎も晴れの落成式を迎えることになりました。本日はお忙しい中、石川県議会議員「小倉宏誉」様、小松市長「西村徹」様、同窓会長「吉田歳嗣」様をはじめ、多くのご来賓の方々にご出席いただき、心より感謝申し上げます。また、谷本石川県知事様をはじめとして今回の大事業にご尽力下さった全ての方々に、生徒を代表して改めて御礼を申し上げます。

私たちにとって、この新校舎が少しずつ完成していく過程は、お気に入りの本を少しずつ読み進めていくような喜びがありました。そのページが一枚めくられることに新しい発見があり、さまざま工夫が凝らされていることに驚きました。そして、そのすべてが、百有余年の歴史を有し、多くの人材を輩出してきた小松高校が、その新しい歴史を刻むにふさわしいものであると気づかされました。何よりも私たちが驚いたのは、私達の学習環境に対して非常に配慮されていることです。特に個別スペースが与えられた落ち着いた雰囲気学習室、百名以上が入ることのできる多目的

講義室、光の満ちあふれた図書館などは、多くが大学進学を目指す本校生徒にとってはこの上のないものです。

また、「ゆとりの空間」が多く配置されていることも新校舎の特徴だと思います。その象徴的な場所が校舎三階のゆったりとしたコモンスペースです。すでにこの場所で、友人達と語り合い、より一層、友情を深める小松高校生の姿が多く見受けられます。また、広々とした廊下には、多くの美術品が常に展示され、私たちの折々の癒しとなっています。さらに、中庭の「哲学の広場」には、絶えず水をたたえる水面鏡があります。この水面鏡は自分の姿を映しだして自己を見つめ直す場所だそうです。日常の慌ただしさから離れ、ひととき、心を



徳田八十吉氏 寄贈
「耀彩花器・希望」

記念講演会

小松高等学校新校舎落成記念式典に続き、十一時十分より徳田八十吉氏の記念講演会が講堂(第一体育館)にて行われました。講演は「希望」と題して在校生、来賓あわせて千二百名を前にして約1時間行われました。講演の冒頭、ご自身の高校時代から作家活動に至るまでの思い出をスライド写真と共に楽しく語ってくださいました。当時、生徒会で活躍なさっていた氏は、プール建設のために各方面へ働きかけ念願がかなったことを引用し、「夢」を追いかけるのではなく、「希望」を持ってほしいと語っていました。これは「夢」を持って実現できるかどうかかわからないので、「希望」という明確な目標を持つことによって人生を強く生きてほしいという在校生達へのメッセージが込められているそうです。

講師

徳田 八十吉 氏

(重要無形文化財彩釉磁器保持者・小松高校第4回卒業生)

略歴

昭和8年 石川県に生まれる

52年 第4回日本伝統工芸展 出品作「耀彩鉢」

最優秀賞日本工芸会

総裁賞受賞

61年 エジプト・カイロにて 個展、以後海外展19回

平成3年 外務大臣表彰を受く

5年 紫綬褒章受章

9年 重要無形文化財彩釉 磁器保持者

(人間国宝) に認定される

小松同窓会開催さる

平成十八年一月二十三日、小松グランドホテルにて平成十七年度小松同窓会新年会が開催され、約三百名が出席し、新たな年の門出を祝い、旧交を温めあった。

長沼弘喜副会長の開会の言葉に続き、吉田歳嗣会長（高校九回）の挨拶が行われた。会長からは新校舎落成記念の募金活動が非常にスムーズに進展し、同窓生から多くの浄財が得られたことに対し、お礼の言葉があり、関東小松同窓会会長白江治彦氏（高校八回）、富山小松同窓会会長長田武嗣氏（高校十八回）からも祝辞を賜った。

続いて栖川成人校長（高校十八回）からも校舎完成の報告があり、同窓会の協力に対して感謝の言葉が述べられた。懇親会の司会は当番会期である高校三十二回の後藤修平、平野勝、徳田順子各氏によって行われ、出席者中最長老の宮川恒氏（中学二十六回）の乾杯により宴が開始された。会場内のあちこちに談笑の

輪ができ、旧友と楽しげに語り合う姿からは、小松同窓会会員の母校愛と絆の強さがひしひしと感じられた。

またたく間に時間は過ぎ、新年度へ向けての幹事期の引き継ぎが行われ、恒例の校歌大合唱となった。中学、県女、高校の校歌が声高らかに歌われ、徳田八十吉前会長（高校四回）氏の挨拶で締めくくられた。



富山小松同窓会開催

平成十八年四月八日、第八回富山小松同窓会は「とやま自遊館」で、会員三十二人の出席のもと開催され、新校舎落成を祝うとともに旧交を

温めあった。

富山小松同窓会は、富山県内に在住または勤務する小松高校の卒業生で構成され今回八回目を迎えるが、平成三年に故原谷敬吾氏を初代会長として発足し、隔年、開催をしている。

同窓会は、松田光司氏（高校33回卒）の司会で始まり、二代目会長の古田暉彦氏（同9）より今回から会長を引き継いだ長田武嗣氏（同18）が「新校舎の落成を祝うとともに、さらなる母校の発展を願う」と挨拶し、来賓の同校校長栖川成人氏（同18）が高校の近況を報告するとともに新校舎落成募金に対するお礼のことを述べた。次いで同窓会会長の吉田歳嗣氏（同9）の発声で乾杯し、会員は歓談の輪を広げた。また、会場において、同校製作DVDの放映により、新校舎での在校生の活動ぶりが紹介された。

最後に、山本正臣氏（同9）の閉会挨拶で二年後の再会を誓い、同会を締めくくった。

平成17年度 小松同窓会 会計決算書

収入の部				支出の部				
科目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	科目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(A-B)	
1 入会金	3,090,000	3,090,000	0	1 総会費	250,000	184,850	65,150	
2 繰越金	1,198,832	1,198,832	0	2 卒業記念品	250,000	207,900	42,100	
3 諸収入	131,168	326,127	194,959	3 名簿作成費	200,000	100,905	99,095	
計	4,420,000	4,614,959	194,959	4 通信事務費	250,000	227,231	22,769	
平成17年度 小松同窓会 運営基金特別会計現在高				5 渉外費				400,000
繰越金	収入額	支出額	年度未現在高	6 パソコン管理費	1,300,000	1,283,730	16,270	
6,672,103	2,442	0	6,674,545	7 会報事業費	600,000	526,800	73,200	
平成17年度 小松同窓会 基本財産特別会計積立額				8 記念館事業費				150,000
北國銀行定期預金	15,000,000	新生銀行債券貯蓄	10,000,000	計	4,420,000	3,497,346	922,654	
平成17年度 小松同窓会 天守台編集委員会郵便振替受払額				11 雑費				100,000
繰越金	受入額	払出額	差引残額	12 予備費	170,000	0	170,000	
498,630	576,435	149,235	925,830	計	4,420,000	3,497,346	922,654	
				次年度繰越額 収入額-支出額				1,117,613

同窓生を尋ねて

第3回



関東小松同窓会支部長

日本棋院 **白江 治彦** (高校8回)

棋歴書

- 1938 石川県小松市生まれ 芦城小学校、芦城中学校を経て、小松高校二年で中退後
- 1956 日本棋院へ囲碁修行
- 1957 日本棋院初段としてプロデビュー
- 1975 十段戦で、(棋士序列一位)の藤沢秀行棋聖を破る
- 2004 現役引退 八段昇段

- 「受賞」
- テレビ囲碁番組制作者会賞
 - 囲碁ジャーナリストクラブ会賞
 - 囲碁普及功労賞

- 「著書」
- 誰も言わなかった碁の本 (青春出版)
 - 碁書の内、過去最高の販売数
 - 白江の手筋・ハボ筋 (NHK出版) など約70冊

- 「テレビ出演」
- NHK「囲碁講座」講師を4回(4年間)
 - NHK衛星「囲碁将棋ウィークリー」司会(5年間)
 - TBS「囲碁アワー」司会
 - プロ棋戦や全国高校囲碁大会の司会・解説など約20年

- 「多面打ち」
- 1990 ● 銀座歩行者天国で101面打ち
 - 1991 ● パリで102面打ち
 - 1994 ● 金沢で94面打ち (94? イベントの語呂合わせ)
 - 1998 ● 全国各地で100面打ち以上
 - 日本棋院で230面打ち (世界新記録・残念ながらギネスには正式には載らず)

お忙しい中、誠に恐縮ですが、卒業五十周年の節目を迎えられる関東小松同窓会会長の白江さんに、長年携ってこられました囲碁の世界のことについてお伺いしたいと存じます。早速ですがプロ棋士になろうと決意された切っ掛けは?

高校進学の際にプロ制度があることを知り、チャレンジの気持ちになりました。

当時、私に関心を持ってくれていた(中学時代に県内の囲碁大会で優勝入賞を続けており)北陸新聞には金沢在住のプロ棋士との指導対局や東京の囲碁の総本山である日本棋院の実情調査など色々協力して貰いました。

勇躍プロ修業開始にこぎつけました。が早々に師範から年齢と棋力から見て「到底プロは無理」と逆お墨付きパンチを入れられました。十九歳の誕生日までにプロレベルに達するのは無理との判断は当然でしたが、これに発奮して一〇一人の

全国の天才少年少女の中でわずか三人のプロテスト合格をワンチャンスで果たしました。何度も失敗を繰り返すのが当たり前の棋士採用試験に一発合格の例はその後ほとんどありません。以後は苦楽相半ばの四十七年プロ生活でした。

二〇〇四年三月、現役引退をされたのですが、四十七年間のプロ棋士生活について聞かせてください。

●「十段戦」というタイトル戦で棋界ナンバーワンの藤沢秀行棋聖と対局、思うように打てて充実の勝利。周囲を仰天させました。ただ次の対局に負け、タイトル獲得チャンス

を逃したのは返す返すも残念でした。●序盤で盤上の位の高い位置に配石する手法を編み出し仲間から白江の「アポ口流」と名付けられ恐れられましました。(対藤沢棋聖戦もその布石) ●対局は(十五時間)で体重が二、三キロ減少するほどにハードで、体調管理には十分な配慮が必要。

●精実なしの極めてクリーン、すべて自己責任の世界ですが、やり甲斐ありでした。

●若い内はベテラン棋士との対局は勉強になりかつ楽しいものですが、毎年強い若者が登場してくるわけですから年功序列のない勝負の世界の厳しさも存分に味わいました。

◎公式対局以外のこと

●棋士の現役引退は、プロの公式対局からは退きませんが、囲碁普及は人生の終わりにまで続けます。普及の実を上げられたと続けます。普及の

●国内外の囲碁イベントに常時参加。外国は七十八回(約三十九国)国内はほとんどの都道府県で碁活動。ただ外人に碁を教えるときは不便ですが、何とかゴ(碁)学でゴマカシ。やはり高校時代は英語をやっとかんとイカンと後悔。

●一度に複数の相手との対局をこなすアマ囲碁ファンからは神様のごとく尊敬されています。

漫画「ヒカルの碁」以来、子供達

にも囲碁が人気になっていきます。NHKの囲碁講座を通して普及活動にご熱心なのですが、具体的にどんな活動をされておられますか? (囲碁教室や海外でもなされたという一〇二面打ちなど)

●「ヒカルの碁」の爆発的ブームで子供たちの関心が増えました。現在は沈静化しておりますが、かなりの割合で子供に囲碁が根付いています。何度も担当しましたNHK講座では若者への普及を呼びかけており、最近ではスカパーの「囲碁将棋チャンネル」で子供同士(小1〜中3)の対局の解説をしておりますが、将来の目標はプロ棋士が圧倒的。最近キレる子が増えていますが、囲碁はその予防に最適と発信しております。

●三桁の「多面打ち」はこれまでに十四回実行しています。地味なイメージの囲碁を屋外でも数多く、囲碁を知らない向きにもアピール

やっぱり

『わが天守台』

本谷 勇
(中学46回)

昨年暮れのある朝、食事のあと急に思いついて自分でオムスビを作り、リュックを背負って皇居一周のウォーキングに出掛けた。

実は、昭和二十六年の上京以来お濠の内側に入ったことがなかったので、その日はどうしても、昭和四十三年から公開されている「皇居東御苑」を散策し「天守閣跡」(天守台)を見たくなったのである。

東御苑は、旧江戸城の本丸と二の丸を皇居の附属庭園として整備した所で、「大手門」を入ると三の丸尚蔵館とか桃華楽堂などの建物や松の廊下跡などの史跡が多数あり、奥の方にある「天守閣跡」には日本人外国人を問わず入園者の大半が訪ねると言われている。

天守台の周囲は、南側には昇降用の坂道が取付けられていて、その前方は「大奥」跡と言う芝生の広場である。西側は雑木林であるが、その先は「乾濠」を挟んで「吹上御苑」に続いて

いる。

台上の中心部は百坪ほどのアスファルト広場で、それを取囲んで石垣までの数メートル幅の部分は芝生だが立入禁止である。周りの眺望は、西方向の「吹上御苑」から南方向に皇居の森が広がり「宮殿」がある筈だが確認できなかった。北側には日本武道館が見え、東側は日本の中心街大手町で超高層ビルが林立している。

往時を偲びながら『さあ、弁当』と思ったが、どうも落ち着かない。老爺手作りの“おむすび”が似合わないのである。一人で「大奥」跡の芝生で



食べること(ボール遊び等は禁止だが弁当はOK)にしたが『お前さんは、どちらの天守台が好き?』との自問自答が始まり困った。

皇居さんの方が間違いなく広くて高く、周囲の環境も段違いに立派で整然としている。でもやっぱり『少々雑然としていてヘビが出そうであつても、へ荒城の月やへ古城』を口ずさめる雰囲気の方が楽しい』と想いながら「千鳥ヶ淵」をウォークして帰った。

そんなことをワープロにして小松の級友藤岡秀一君にFAXして置いたら、つい先日、5月5日付の北國新聞が郵送されて来た。

その【時鐘】欄に、『江戸城天守閣の巨大な石垣は加賀藩の寄進によるものである。固い御影石だから加賀の石工たちは苦勞したに違いない』と書かれていた。

母校の天守台は何石造りだったか覚えはないが、皇居の天守台と同じ石工たちによって築かれたのだと判った途端に懐かしくなった。

(東京都練馬区)

会報「天守台」

によせる

須谷 照子
(県女31回)

天守台は毎回興味心かく購読しておりますが最近、中学・女学校の寄稿が少なくなったせいか母校という感覚がうすれつつあります折柄、同窓会本部から新校舎落成記念事業という「募金趣意書」が届きました。

同封の学校近況報告にも目を通しましたが、女学校時代「孔子会」と称する講演会に当時の中学校々舎に一度足を踏み入れただけの私には同窓とはいえず距離感をまぬがれず、即、寄付という気持にはなれませんでした。

という訳で募金の趣意はすっかり私の記憶から消えてしまい日常の雑事に追われておりましたところ、たまたま書類を整理中、寄付金額を記した封筒が保管されているではありませんんか。

つましい年金ぐらしに愛校精神?は別世界と考えておりましたのに、老いのオツムにもチヨッピリ遠い青春が息づいていたのでしようか。

会報によれば募金は目標額を凌ぐ達成度とか、いささか慙愧の念にかられながらあらためて慶賀と感謝を申し上げる次第です。

(静岡県)

小松高校での

青春の一コマ

菅沼 清子
(高校12回)

年の昭和三十三年七月三十日のこと、学校でクラブ活動をして夕方帰宅し、父が入院する療養所へ母と交代して見舞った時に突然起こった。父は私の目の前で息絶えたのだ。四十五歳の父は、足かけ七年間の闘病生活の末、まだ三十六歳の母と高校二年の私と小学校二年の弟の三人を残し逝った。

八月一日の葬儀の翌日二日には、私は全国高校総体軟式庭球の石川県代表選手団の一員として、ペアを組む友人と二人で三重県津市へ出発したのである。真夏の長い旅であった。開会式での入場行進では複雑な感情がこみ上げ、涙で目の前がかすみつ放してあった。試合成績は一回戦敗退。対戦相手の広島チームには強力な顧問がついていて私達を口汚く罵り、こちらには学校からの引率者もなく、その上純粋な田舎者であったから心理的に大にかき乱された。惜敗であった。

さて、母子家庭となった私

に對し担任の大松先生と松村校長先生は優しかった。高校生の奨学生手続きを薦めて下さり学業に励むよう支援して下さいました。

金大合格後には女子寮に入寮できるよう松村校長先生が私を伴ってわざわざ金大へ出向いてお願いをして下さった。このことは、今思い返しても一人の不運な生徒を大切に思う温かい教育だったと感謝し、有難く思っている。

私は三年の秋まで文武両道を目指し、まっ黒になってテニスコートをかけ回ったことや、兼六園コートや七尾の小丸山コートで試合したこと等は、父の死という悲しい思い出と同等に楽しい思い出となっている。

進学先は、母に負担をけないように金大教育学部と決め、教職を志すことにした。お陰さまで東京オリンピックの年から三十八年間、小松と金沢の小中学校で定年まで勤めさせていただいた。

小松高校での青春の日々の一コマ一コマは衣装応援ではしゃいだ運動会・初めてポートに乗ったクラス対抗ボートレース・尾坂先生の指揮で

校歌を歌った運動場での朝礼・プロ歌手長門美保さんを招いての創立記念ソプラノ独唱会・楽しかった授業の数々・胸をときめかせたプラトニックラブ等々を思い出すにつけ、ただただ懐かしいばかりです。

小松高校よ 永遠なれ！
小松高校よ ありがとう！
(金沢市)



チヨコレートパフェー

中村 照子
(県女31回)

その頃、今の大和は片町にあって「宮市大丸」といった食堂が五階にあって、父母の諸用で金沢へ行った時は、必ずその食堂で食事をしたものである。

その頃からもうチヨコレートパフェーはウインドに飾られていたけど、一寸贅品に思えて父母にねだった事は無かった。

女学校三年生の夏、尾坂先生に引率されて金沢放送局へ行って放送した事がある。

謡曲の羽衣と同じ様式で、シテとワキの天人と漁師を独唱でやりとりをし、いわゆる「地」になるところを何人かで合唱した。次は神足病院の奥さんになった隆子ちゃん、三木露風の野バラを独唱された。三曲目は何をうたったかどうしても思い出せない。ピアノの伴奏をした人が三人、旧姓で勝木教子さん、大家美智子さん、丸山和子さん、だから三曲目もあつた筈なのに……

放送局の帰り、十六人全員「宮市大丸」の食堂へ入り、好きなものを注文して良いと言われた。私がチヨコレートパフェーを注文したことはいうまでもなかった。

多分、スプーンの先に少しづつつけて、ゆっくりゆっくり舐めていたことだろう。

その年の十二月八日、真珠湾攻撃で大東亜戦争の歴史が始まったのでした。(小松市)

過去5年間の合格状況 (浪人を含む)												平成18年3月 進路先	
												国公立大学	
国立大学	2002	2003	2004	2005	2006	公立大学	2002	2003	2004	2005	2006		
北海道大	6	4	6	5	12	首都大東京	3	3	3	1	4	北海道大	11
東北大	1	2	6	8	4	金沢美工大	1	0	3	0	2	東北大	2
筑波大	4	6	6	8	10	石川県立大				2	2	筑波大	10
千葉大	2	5	6	1	7	県立看護大	1	0	2	0	3	千葉大	7
東京大	2	2	2	4	1	京都府大	1	1	0	1	2	一橋大	2
東京外大	1	2	0	2	1	大阪市大	0	2	0	0	4	東京大	1
東京工大	0	2	2	0	1	大阪府大	2	0	4	5	7	新潟大	2
お茶水大	1	1	3	0	1	その他	14	16	25	13	13	富山大	19
一橋大	0	0	0	1	4	公立大合計	22	22	37	22	37	金沢大	38
横浜国大	3	4	2	0	3	私立大学	2002	2003	2004	2005	2006	福井大	9
新潟大	10	3	7	3	2	早稲田大	18	13	10	19	18	静岡大	4
富山大	21	19	17	12	28	慶応大	12	8	5	13	7	名古屋大	5
金沢大	47	64	54	53	49	明治大	10	8	14	5	11	京都大	11
福井大	6	8	5	7	9	立教大	7	1	1	5	1	大阪大	8
信州大	4	1	6	4	2	法政大	14	15	9	5	8	奈良女大	3
静岡大	5	8	4	6	4	中央大	9	17	9	21	9	神戸大	7
名古屋大	8	5	6	4	5	日本大	18	19	13	13	3	広島大	3
名古屋工大	2	3	2	2	2	青山学院大	9	9	4	10	8	首都大東京	2
滋賀大	0	0	0	4	1	東京理科大	21	17	12	7	8	石川県立大	1
京都大	5	7	3	9	12	上智大	3	6	2	2	3	金沢美工大	1
大阪大	4	9	12	11	9	同志社大	24	24	26	25	26	大阪市大	3
大阪外大	4	2	2	0	4	立命館大	66	71	88	63	74	私立大学	
奈良女大	2	2	1	1	4	関西学院大	17	12	15	31	30	早稲田大	7
神戸大	6	7	14	4	8	関西大	30	19	33	30	48	慶応大	1
広島大	0	3	1	2	4	京都産業大	12	29	15	21	17	東京理大	1
その他	38	33	32	25	22	その他	211	303	260	210	215	同志社大	3
国立大合計	182	202	199	176	209	私立大合計	481	571	516	480	486	立命館大	10
												関学大	5
												関西大	5

今春の進路状況

新課程初年度入試だった平成十八年度入試は新課程への移行以外にも、「センター試験の英語リスニングテスト導入」「国立大後期日程の廃止の動き」「薬学部六年制化」などの変動要素を多く抱えた入試であったといえます。そのような中でセンター試験の平均点の大幅アップと受験生の上昇志向もあって難関国立大志願者も大きく増加しました。また、私立大学の方も難関・有名大学に受験生が集まる結果となり、二極化がより鮮明になったといえます。

本校生徒は三〇七名の生徒がセンター試験に受験し(志願率九七八%)、粘り強く受験勉強に取り組みました。その結果、上記の表に示されるように国立大学の合格者数が二四六名(浪人を含む)と過去五年間で最高の数を得ることができました。とくに京大・北大・筑波大などの大学で久々に合格者が二ケタに達しました。また、公立の医学部医学科にも六名の生徒が合格しました。このように本校も全国的傾向と同様に難関大の志向が高く、またよく踏ん張り、その目標を達成できた生徒が多かったと思います。

現三年生も総体・総文が終わりに、本格的な受験勉強に入りました。彼らも、一・二年時暗くなるまで教室に残り机に向かっていた三年生の姿を目に焼き付けています。きっと先輩に負けじと自分の自己実現のために最後まで粘り抜いてくれるものと信じております。

記念館だより

記念館がリニューアルされました!

小松高校百年の青春紀行「記念館」へ是非お立ち寄りください。小松中学から昭和37年まで使われていた階段教室の復元や本校の歴史に刻まれたさまざまな青春の足跡を整理し展示されています。

富岡省三写真展 (国画会写真部会員・中学46回卒)

と き: 2006年7月1日より

と ころ: 記念館

「天守台」編集委員会

- | | | | | | | | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------|---------|
| 委員 宮西勉夫 (高校9回) | 委員 黒本儀治 (中学46回) | 委員 濱野光代 (県大35回) | 委員 野田洋子 (高校12回) | 委員 杉永信幸 (高校18回) | 委員 池田幸夫 (高校32回) | 委員 山口和博 (高校34回) | 委員 山本悦子 (高校34回) | 委員 同窓会事務局 | 委員 学校職員 |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------|---------|